



## 数学科の学習内容の確実な定着に向けて

学力向上プランの現状課題や全国学力学習状況調査の分析で、基礎基本の定着や概念等の理解不足が課題として挙げられている学校が多くありました。授業や家庭学習等において、効果的な働きかけを行い、学習内容の確実な定着を目指しましょう。

### 授業において

#### ○ 学び直しの機会を設定する

『中学校学習指導要領解説数学編(P164)』には、「生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定することに配慮すること。」とあります。

**単元計画作成時に、領域等の系統性を確認し、学び直す内容や場面を設定していきましょう。**

例えば、2年生で一次関数の変化の割合について指導する際に、1年生での反比例を再度取り上げ、変化の様子やグラフの形状、変化の割合が一定でない関数が存在することなどについての理解を確かにしていきます。

#### ○ 毎時間の評価をそれ以降の時間で生かす

授業内において、ねらい達成などの状況を見取り、**学習内容の理解が不十分な生徒については、それ以降の授業で、確かな定着を図るための個別指導を行っていきましょう。**

例えば、右図(奥能登スタンダード)の第4時で「移項の理解が不十分」な生徒を見取り、第5、6時の様々な方程式を解く練習問題等において、移項について支援を行うことで理解を確かにしていきます。

#### ○ 具体的な数や図などを使ってイメージをもたせる

説明を聞いたり、まとめを書いたりするだけでは理解が不十分な生徒がいます。**具体的な数や図を使ってイメージをもたせていきましょう。**

例えば、一次関数のグラフをかく学習で、言葉だけでまとめを書くのではなく、具体的な傾きや切片の例などの図を一緒にかくことで理解を確かにしていきます。

### 家庭学習等において

#### ○ 各種調査や定期テスト等を生かす

家庭学習等では、現在行っている授業の内容だけでなく、**これまでのテスト等において、理解できていなかった内容についても取り組ませてください。**

全国学力・学習状況調査の解説資料では、「解答類型」を設け一人一人のつまずきが見えるようになっています。定期テストの結果なども合わせ、特に定着が弱い生徒について一人一人の課題を把握し、家庭学習等で取り組ませる内容を工夫していきましょう。例えば、移項に課題がある生徒には、移項の意味を問うなどの内容に取り組ませることで理解を確かにしていきます。

### 一次関数(2年) 学び直しの機会を設定

#### 比例, 反比例(1年)

- ・既習の比例・反比例を関数として捉え直す
- ・負の数までの拡張
- ・文字を用いた式で定義し、性質を考察
- ・表・式・グラフの関連

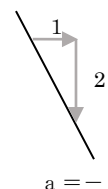
【解説 P5 1 ~ C 関数の指導内容の概観より】

② 方程式の解き方	等式の性質を使って一元一次方程式を解く過程を振り返って、移項の考え	移項の意味を理解し、移項の考えを使って一元一次方程式を解くことができる。【知技】
4		
③	係数に分数を含む一元一次方程式を解く。	かっこや係数に小数を含む一元一次方程式の解き方を理解し、その一元一次方程式を解くことができる。【知技】
5		
6		係数に分数を含む一元一次方程式の解き方を理解し、その一元一次方程式を解くことができる。【知技】 一元一次方程式について学んだことを学習に生かそうとしている。【態】
7	基本の問題	基本の問題に取り組む。 学習内容を適用して、問題を解決することができる。【知技】

見取りを生かして支援

まとめ  $y = ax + b$  のグラフは…

図を追加する



## 学力向上推進研修 [第1日] について

5月中旬に、各学校の研究主任を対象に、オンデマンド研修が行われました。

研修後のアンケートの回答等です。学校研究の振り返りや推進の参考にさせていただければと思います。

### R5年度 学力向上の重点

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた「主体的・対話的で深い学び」の実現

#### 資質・能力の育成

主体的・対話的で深い学び

一体的に充実

個別最適な学び(指導の個別化、学習の個性化)  
 子供たちが自らを伸ばして奮闘しながら、ねらいに迫るための工夫  
 【学習指導のポイント】  
 子供たちの多様な発想(ひらき)を、十分な考え、深い考え、7つの領域(領域)に活用し、学習意欲を高める。

協働的な学び  
 子供たちから引き出した多様な考えを生かしながら、ねらいに迫るための工夫  
 【学習指導のポイント】  
 集団の中で協働的(協力)して考えを深め、一人一人のよい所や得意な所が引き出せるように工夫する。

※SSNの「いしかわ学力向上プログラム」に掲載の『R5年度 学力向上の重点』

Q. 本日の研修内容を学校で推し進めていくときに、学校研究やご自身の授業づくりにおいて、どのようなことに取り組んでいきたいか。

- 単元の学習課題が子供達にとって魅力的であることが大事だと思った。
- 学習の動機付けとして、既習を基にした予想やズレ、具体例などを通して見通しをもてるように心掛けている。
- 年間のゴールの姿を再確認する。
- 授業で子供達にどんな力を付けたいかを明確にしていくことが大切だと改めて学んだ。
- 子供一人一人の力を伸ばしていく取組を進めたい。
- 考えを共有・吟味させ、途中までの考えや誤答を生かしていく指導を行っていききたい。
- 誤答の取り上げは、「間違いをみんなに広められた」とショックを受けないよう注意や工夫が必要。
- 話し合いにおいて、意見発表の場だけになってしまう。意味のある話し合い活動にしたい。
- 各教科の見方・考え方を理解すること。
- 学習指導と生徒指導を一体的に捉え、充実を図ることはとても大切。
- 図の中でかけ算で示されるように、大きな効果が得られるICTを活用していきたい。



授業への思いを知りたいと子供達数名に尋ねたところ、「自分達をもっと信じて任せてほしい」「グループ活動など自分達で課題を解決したい」「先生の解説でしっかり学習したい」などの思いをもっていることが分かりました。

～ある学校の研究主任より～



Q. ご自身の学校では、「子供達が主役の授業」が、どのくらい実現されていますか。

- 1:十分実現されている
- 2:ほぼ実現されている
- 3:あまり実現されていない

小学校(前期)



中学校(後期)



「子供達が主役の授業」とは、どのような授業なのかを話し合うことも個々の授業づくりや学校研究の方向性を考えることにつながります。

### 各学校の学力向上プランの具体的な取組例

- 全員が参加できる導入
- 単元の導入で単元のゴールの姿を示す
- 発問や問い返しの具体例を共通理解
- 問い返しを区別  
 (曖昧さや不足への問い返し、考えを揺さぶる問い返し、ねらいにせまる問い返し)
- アウトプットする場面の設定
- 考えの書き方を例示
- 話し合いの視点を示す、視点の焦点化
- 話し合いの前に、目的やゴールの姿を示す
- キーワードを用いて説明
- リレートーク
- 交流後に考えの広がりや深まりを確認
- 教具やICT機器等の効果的な活用